



2020年7月6日

差枚

+968枚

RANK

B

## 実戦機種

パチスロ 新鬼武者～DAWN OF DREAMS～、バーサス

## 実戦レポート

高設定台に掠ることすらできず、為す術なく負けた実戦の直後に迎えたこの日。自粛明けの戦績がせつなくイイ感じに来ていたのに、ここでの連敗はなんか色々マズイ気がする！ そんな中途半端な危機感が通じたのか、入場抽選で引いたのは「24番」というなんとも微妙な数字。このホールは先頭から何人かが必ず狙う「お決まりの機種」がいくつかあるんだけど、それ以外は全く分からんなあ。まあ新台系はけっこう強めに使ってくれる印象はあるけど...

そんな感じで入店すると、やはり新台のサラ番2は即埋まったようだが、もう1機種の新台「パチスロ 新鬼武者～DAWN OF DREAMS～」は空いていた！ 先月、自粛明け一発目の実戦で運よく設定6を一発ツモしてから、ちょっとお気に入りなんだよな、この台。ということで打ち始めると、設定差のある要素の一つである「スイカからのCZ突入率」が序盤から良好で、しかも成功率も高い！ そして、高設定を判断する上での大きな要素と言われている「ボーナス終了後の鬼モード突入率」も、まあまあ及第点をキープ。これはひょっとするとあり得るぞ...と思いたいところだが、設定6を打った時と明らかに違う点が一つ。幻魔闘ボーナスで勝ちすぎるのだ。というより、ネットでの体験談などを見ると、設定6だけ突出して連チャン性能が抑えられているようなので、むしろこちらが本来のゲーム性なのかもしれない。あの日は明らかにお荷物役だったロベルト、茜、お初の3人が格上相手にもコンスタントに勝ち星を持ってきてくれるのは、打っていて非常に爽快だし出玉も伸びてくれるしありがたいのだが、そうなればなるほど設定6の期待度が下がっていくかもしれないと思うと、複雑である。この機種に限らず、6号機の設定6は「初当りを引きまくるけど一撃の出玉が伸びづらい」というスペックになりがちなので、その機種の楽しさを存分に味わいたいのなら設定5以下の方が良かったりするのかもしれない。でも「設定6と設定5どっちが打ちたい？」って言われたら、だいたい設定6って答えちゃうんだけど...。ってか、最近この話を色々なところで喋っているの忘れちゃったけど、もしかしてこの「S級スロッター」でも前に書いたことあったっけ？ ま、いいか。

んで実戦の方はというと、CZとレア役での当選が活躍してくれるおかげで大きなハマリがなく出玉も増えているのだけど、冷静に見ると100G付近のゲーム数当選は少ないし、鬼モードも突入はするもののボーナス引き戻しに繋がるのは半分くらいだし、気付いてはいたけど、あっても中間設定ぐらいってところかね。そう判断する頃にはもう夕方になっていたの、最後は毎回のように客側のプラスになっているバーサスのシマで、REGだけが高設定域だった台に座ってさらにREGを増やし、出玉は500枚ほど減って終了。たまにはこういう勝ち方もいいか。